I-10

コレクションを持つ美術館の展示室に関する研究

A study on art museums with collection.

○石川もも香[1], 堀切梨奈子[2], 佐藤慎也[2]
Momoka Ishikawa[1], Rinako Horikiri[2], Shinya Satoh[2]

The art museums having a collection can design the exhibition room to show the display well. In this study, I clarify a ratio and the scale of the art museum having a collection, the tendency of contents. The art museums published in the new building for the past 30 years increase most from 1995 through 1999 and decrease afterwards. The National Gallery and the university have much number of the collection for the purpose of artworks keeping it.

１. 研究背景と目的

美術館は、美術品を良好な状態で保存して次世代に引き継ぐこと、展示公開や教育普及などを通じて文化の価値を継承・発展していくことが役割として挙げられる。設計段階で展示する美術作品が決まっていない場合、展示室の大きさや形状が決定しにくく、設計やデザインの根拠が明確でないことがある。一方で、コレクションを持ち、展示品が予め決定されている美術館の場合は、展示品をよりよく見せるための展示室の計画・設計を行うことが可能である。特に収蔵品の展示を行う展示室では、その美術館の持つコレクションが展示室の設計において重要な要素になると考えられる。本研究では、コレクションを持つ美術館の割合や、コレクションの規模などの傾向を明らかにすることが目的である。

２. 既往研究と本研究の位置づけ

日本建築学会において「美術館」をキーワードに論文検索を行うと、計画系論文集が 31 件、大会梗概集 452 件該当した。既往研究では、鑑賞者の評価を元に展示壁面の連続性や展示壁面配置方法の在り方を、平面形態、展示室面積、展示コーナー数といった規模との関わりにおいて検討する研究[1]や、美術館の空間構成に着目し、年代ごとの新築数と平均延べ床面積、展示室数、最大展示室集積率、各室の面積の割合などを算出する研究[2]が挙げられる。美術館の展示空間に関する研究はいくつかあるが、美術館の持つコレクションに関する既往研究は少ない。

１：日大理工・院(前)・建築、２：日大理工・教員・建築

３. 研究方法と対象

本研究では、過去 30 年間で建築雑誌「新建築」に掲載された美術館、博物館、それらを含む複合施設についてリストアップを行い、主要用途が美術館単体のものについて、コレクションの有無や規模などの傾向を明らかにする。1990 年～2020 年の 30 年間で新建築に掲載された美術館・博物館・またそれらを含む複合施設は計 350 館であった。そのうち主要用途が美術館単体のものが 177 館、博物館単体が 66 館、美術館を含む複合施設が 51 館、博物館を含む複合施設が 18 館、美術館・博物館が 4 館、その他が 34 館であった。

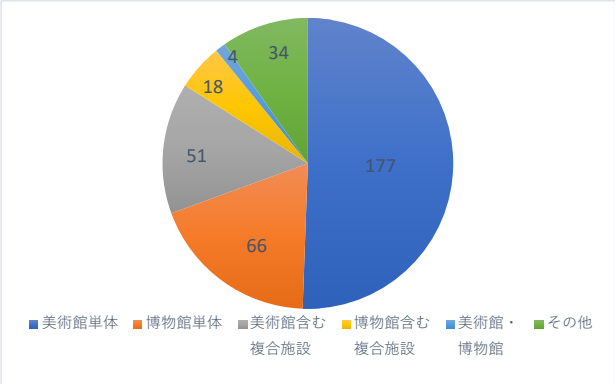

図１　主要用途の割合

図１から、主要用途が美術館単体のものが半数を占めていることがわかる。続いて博物館単体が約三分の一を占めており、美術館を含む複合施設は、博物館を含む複合施設の約３倍の数になっている。全体を通して、博物館よりも美術館の方が多くなっている。

４. コレクションを保有する美術館の数

美術館数とホームページにコレクションを保有していることが表記されている美術館の数を図２に表した。

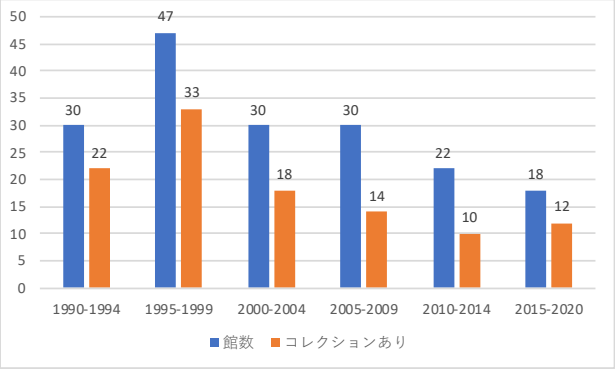

図２　年代別による美術館の数

図２から、美術館数は 1995 年～99 年が 47 館で、その後は減少傾向にあることがわかる。2015～20 年は 18 館で、1995 年～99 年よりも半数以下に減少している。また、コレクションを保有していることがホームペに明記されていた美術館は、過去 30 年を通して、美術館数の約３分の２の割合であることが分かった。

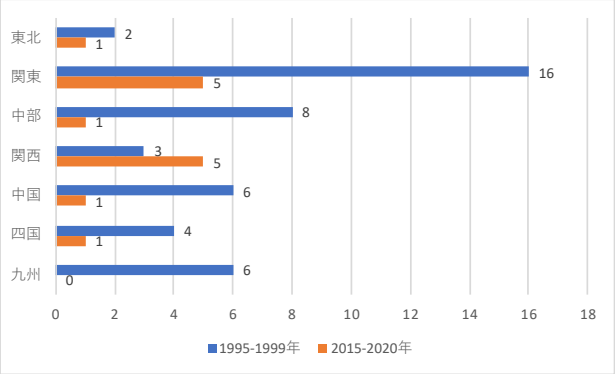

図３　所在地域別による美術館の数

1995 99 年と、2015 20 年の美術館数を地域ごとに図３に示した。どちらも関東の美術館が多くなっているが、全体的に減少傾向にある。唯一、関西地域が３館から５館と増加している。1995 年代に多く設立された関東では大幅に減少しているが、20 年の間で関西地域の美術館に注目度が高まっていることが考えられる。

５. コレクションの規模と部類

美術館のホームページにコレクション数が記載してあった美術館は 39 館あった。保有点数を図４に表した。図４を見ると、コレクションが１万点以下の美術館が 31 館あり、約８割を占めている。コレクションの数が最も多かったのは高知県立美術館で、次いで東京藝術大学美術館であった。県立美術館や大学美術館は美術品を保管する目的も大きく、コレクション数も多くなっていることが考えられる。

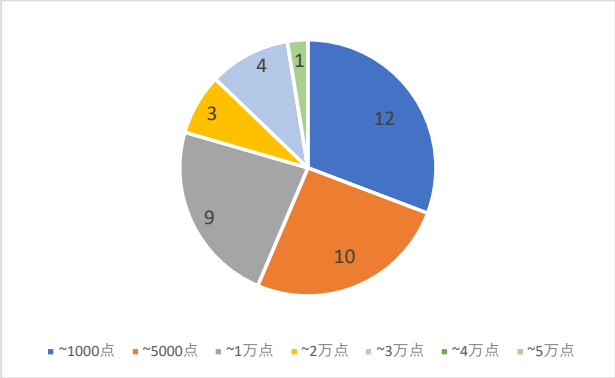

図４　コレクション点数

コレクションを保有している美術館 109 館のうち、公式ホームページで、保有するコレクション内容や種類を表記してある美術館は 82 館であった。２館以上の美術館で表記のあったコレクションの種類を表１に示した。最も多くの美術館でコレクションされている作品は絵画で、ついで彫刻、工芸品の順であった。

コレクション内容	館数
絵画	55
彫刻	33
工芸	23
版画	21
写真	10
書	9
ガラス	4
インスタレーション	3
映像	3
刀	2
絵本原画	2
絵巻	2
その他	14

表１　コレクションの種類

６. 結論

過去 30 年で新建築に掲載された美術館は、1995～99 年にかけて最も増加し、その後は減少している。新設されている美術館数も減少傾向にあると考えられる。また、コレクションの保有が明記されている美術館は全体の約３分の２程度であった。国立美術館や大学美術館は、美術品の保管する目的からコレクション数が多くなっていることが分かった。

参考文献

[1] 仙田満, 篠直人, 矢田努, 鈴木裕美:美術館展示室の建築計画的研究：展示壁面の配置方法と利用者の評価について, 日本建築学会計画系論文集, pp221, 2011-01

[2] 小池志保子, 中川理：空間構成からみた日本の公設美術館の変化に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, pp145-149, 1999-03